

スタートする・出発する・はじまる

神戸 英雄

1. はじめに

カタカナ語。世間にはそれに反感をいだく人も少なくないようである。しかし、それがいつときの流行に終わらずに表現され続けるといえるのは、その語でしか表わせない意味があり、それが必要だからだと考えられる。外国語でなく、外来語となるのはそのためである。

以下の小論では、「外来語(名詞)+する」の一つである「スタートする」をとりあげ、このカタカナ語が日本語の中でどのような意味を表わすことになっているのかをさぐってみたい。

2. 比較語えらび

「スタートする」は英語の“start”に由来する。日本語における外来語の通例のように、まず「スタート」が名詞としてとり入れられたようである。

「六頭の馬がスタートに近づいた」有島武郎『カインの末裔』1917(荒川惣兵衛 1967より)

それから生まれた動詞「スタートする」に辞書は次のような言いかえ語を与えている。

「出発する。かけだす、着手する」(棋垣実編 1966より)

また、“start”を英和辞典でひくと、自動詞としては、
出発する、(旅行に)出かける。始動する。

～し始める。始まる。

などの訳語を一般に見つけることができる。「スタートする」がそれらの言いかえ語や訳語と何らかの類義性をもっていることは予想できる。そこで今回は、「出発する」「はじまる」を比較語としてみたい。なお、「スタートする」が他動詞として表現される例[(30)]もなくはないようであるが、今回は論述の中心からは省く。

3. 「出発する」と「はじまる」

(1) 二日午前八時 各大学の第一走者は 一斉に東京・大手町を スタートした。

(2) 春の交通安全運動が スタートします。

(1)の「スタートし」を「出発し」と言いかえることはできないうえ「はじまり」とは言えない。一方(2)では「はじまり」と言いかえることはできるが「出発

し」はおかしい。これは、「出発する」「はじまる」それぞれの「主題」や「主格」になることばに違いがあるためではないかと思える。

3.1. 「主題X, Xが……はじまる」のXについて、
(1)の主題である「走者」はヒトの一つの姿を表わす。ということは、「はじまる」のXにはヒトを表わす語は立ち得ないことを予想させる。

(3) 音楽会が はじまる。

(4) 春の交通安全運動が はじまる。

(5) 一日から学校が はじまる。

(6) 『赤と黒』は フランシュ・コンテの美しい町ヴェリエールの描写で はじまり、……。

(7) 志賀高原でもようやく積雪が はじまった。

(8) 新年が はじまりました。

(3)の「音楽会」は人の活動によってなりたつ「こと」を表わす語であるがヒトは表わしていない。(5)の「学校」は、学校で人がいろいろ活動すること、の意。(6)は作品の名前であるが、この場合、作者が「赤と黒」を叙述すること、と解釈できると思う。また(8)の「新年」も、新たな年の時が流れること、と解釈できると思う。そこで次のことが考えられる。

(A)「はじまる」のXは事柄を表わし、「～が…すること」と解釈できる語である。そしてその「こと」は、瞬間に終わってしまうものではない。

これによって「人」も「花」もXにはなれないことがわかる。また、「地震が はじまった」と言うには、地震が継続しなくてはならない。

では「出発する」のXはどうであろうか。

3.2. 「主題X, Xが……出発する」のXについて

(9) (東京から)私たちはあす鹿児島へ 出発する。

(10) いよいよ列車は 出発する。

(11)? 放牧場へと牛が 出発する。

「私たち」は、ヒトである自分たちを対象として表現している語である。そして「私たち」はこれから場所の移動をしようとしている。「列車」も移動する。しかし移動しさえすればいいかという、(11)は牛が意志をもって動きだす感じを与え、ひとりでに動きだす場合を表わすにはやや不自然である。牛以外の動物にして

も同様である。たとえ言うとしても、それを移動させる人との関係が含まれる。「列車」の場合も、それには話者あるいは話題の人が乗っているであろうし、そうでなくても運転手は乗っていて人の操作によってすすむ。

このように「出発する」は、ヒトを中心としたものが移動する状態に入ることを表わす。それが基本だと思う。が、その移動が現実になくても、今までと違う所へ向かう連想が働いて、次のような例がうまれてくる。

(12) 教員として 出発して 以来、絶えず人間のすばらしさとおそろしさに出会ってきた。

(13) 戯曲から 出発した 久米正雄は、……。

これらのたぐいは、「人が～として出発する」という構文をとっている。(13)も「作家として」を補うことができる。

さらに主題がヒトを表わす語でない次のような例もある。

(14) 生命の科学は、非常に複雑な人間の生命の解明ということから 出発して、……。

Xである「生命の科学」は抽象的な「こと」を表わすが、それを「生命の科学にたずさわるヒト」と言いかえることができる。そこで次のことが考えられる。

(B)「出発する」のXは、移動するヒトを表わす語である。それが基本となって、人の操作によって移動するもの、さらには、現実に移動するわけではないがあるつとめや立場を持続するヒト、そしてまた人の活動によって持続し変わることを表わす語へと広がる。

(14)の「出発する」は「はじまる」と言いかえることができる。しかし、「出発する」の場合の「生命の科学」には、それに関係する「ヒト」の含意を読みとることができるのに対して、「はじまる」とした場合には、それらに関係する人が、生命の科学を研究する「こと」の含意を読みとることができる。つまり「出発する」の基本が「ヒト」について表現するのに対して「はじまる」は「こと」についてであるという対照が成り立つ。

ではこの両語に関連する「スタートする」は、それぞれどのような異同があるのだろうか。

4. 「出発する」と「スタートする」

(15) 第一走者は一斉に東京・大手町を 出発した。「スタートした」と比べると、「出発した」走者が走る状態に入る勢いが表わされず、落ちついてしまっている感じを与える。現代では稀であるが、歩いて東京

から九州まで行く場合、「出発する」と言うのは普通であるが、「スタートする」と言うと、何かの記録を目差して勢い込んでいる感じを与える。そこで次のことが考えられる。

(C)移動に入る時に感じられる「速さ」「勢い」の大きいことを表わすには「スタートする」と言う。

この特徴のために(16)のようにどこかへ移動することを直接表わしていない場合や、速さを問題にしていな場合にも、(12)や(13)と比べて、その状態に入ることを「晴れやかに」表現する効果が生まれるのではないかと思う。

(16) いよいよ社会人として スタートする 皆さんは、……。

そこで次のことも考えられる。

(D)ヒトがあるつとめや立場を持続する状態に入ることを、より「晴れやかに」「際立たせて」表現するのが「スタートする」である。

一方、移動する場合、到着点が近いと「出発する」は不自然である。

(17) ? となりの家へ 出発する。

もし言うとするれば、これから一騒動おこすために、といった感じを与える。ということは、先に(11)のところでもふれたように、「出発する」には「意思が強い」ということが含まれている。そのため、近くや通い慣れている所へ行く場合、散歩やどこへともなく暇つぶしに出る場合などには「出発する」は不自然な表現になると考えられる。その点「スタートする」はどうかというと、到着点が近くでも速い移動が行なわれるのであれば言える。また「意思が強い」ということは含まれていないように思う。そもそも、(18)の宣伝文句に見られる要求文はあるが、(19)のように一人称の動作について「スタートする」はおかしいのではないか。

(18) この春、学校をご卒業の方々、お化粧も上手になって、社会へ スタートして ください。

(19) ? 私はゴールめがけて スタートした。

つまり話者以外の人の動作を客観描写するのが「スタートする」で、そのために「出発する」のような「意思」は含まれていないようだ。

以上のようなことから、駅伝のように遠い町まで移動しての結果が問題になるものでは「出発する」と言ってもまだよいとしても、100m競走をはじめ、競技場内での競走についての表現としては「スタートする」と言うのが普通である。

ところで、辞書を見ると「出発する」には「目的地へ向かって」の含意があると説明されているものがある。

目的地に向かって出かけること。(西尾実ほか編1973より)〔「到着」に対して〕(目的地へ向けて)いでたつこと。でかけること。(時枝・吉田編1973より)

しかし「出発する」には強い意思が含まれるといっても、それは動き出すことについての意思であり、移動すればどこかしらに着かなくてはならないがその到着点をはじめから意識していなくても「出発する」と言える。とくに「目的地へ向かう」ことを表わすには、「(場所)へ」と表現するのが普通である。ところが「スタートする」は「(場所)へ」を表現すると不自然な文になる。

- (20) (東京から)九州へ 出発する。
- (21)? (東京から)九州へ スタートする。
- (22)? 第一走者は、第一中継点へ スタートした。

これは次のような両語のもつ意味の差によるものであろう。

- (E)「出発する」が、移動して行くことをも意味するのに対して、「スタートする」は移動状態に入ることをはっきりと表わすのが重点である。

そしてこの違いは、先に述べた、到着点に近い場合に言えるか否かに関係し、また、(C)(D)で述べた「スタートする」の特徴に通ずる。

(E)で「はっきり」と言ったのは、たとえば「とまる」と言うよりも次の例のように「ストップする」と言った方が、いかにも状態の持続がピシヤリとなくなってしまう感じを与えるはずで、そのように、瞬間をきわだたせる効果が「スタートする」にもあると思うからである。

- (23) 北の湖の連勝記録はついに24で ストップした。
- (24) 原油の供給が ストップすると、……。

そこで移動状態に入ることをはっきり表わす「スタートする」は「はじまる」と関連してくる。

5 「はじまる」と「スタートする」

- (25) 国連の呼びかけによる「国際児童年」がスタートした。
- (26) “第三世代のテレビ”とのふれ込みで スタートした 音声多重放送。
- (27) 七日から スタートする NHK大河ドラマ。
- (28) 東日本では緑の週間も スタートし、……。
- (29) 取次店から スタートした K書店は、……。
- (30) さあ積立預金を スタートしましょう。〔※他動詞〕

これらの「スタートする」を「はじまる」と言いか

えることはできる。先に問題にしたXは、これらではいずれも「こと」を表わす語だと考えられる。とともにそれを「～に関係するヒト」と言いかえると、文がおかしくなる。そのために、「出発する」と言いかえるのが無理になるのだろう。

では「はじまる」「スタートする」の意味は同じだろうか。「スタートする」は、競走する人やその人が乗るものが移動の状態に入ることを表わすが、そのために、移動を表わさない場合にも「勢いよく動き出す」印象が加わる。その結果、「スタートする」と言うと、「勢い」「新しさ」「晴れがましき」などが伴うことになり、また「こと」が行なわれるようになる時をはっきり表わすことになる。「宣伝効果」をねらう表現では、「はじまる」で意味が通じるのに、好んで「スタートする」と言われるゆえんである。逆に言うと、そうした特徴のために次の例のような「はじまる」を「スタートする」と言いかえることは、少々無理になる。

- (31) こちらから話しかけると、答えは「エトナー」で はじまり、……。
- (32) コーチャン調査はロ社の概要、二人の経歴からはじまって、……。
- (33) 鶴見川第二保健所ではあわただしい動きが はじまったが、……。
- (34) 九時から「熱中時代」が はじまる のを、眠い目をこすりながら待っている子供達。

新聞にある次のような例は、「スタートする」と言うだけの必然性があるのだろうか。

- (35) 米側資料の分析、検討が スタートするが、……。
- (36) 二月一日から衆院予算委審議が スタートする。

競走などの出だしを言う場合には「スタートする」は日本語として定着していると思えるが、「はじまる」で言いかえができる表現の場合、その時の気分でなんとなくいい感じがするので言っている、といったきらいがなくもない。「はじまる」が日常語として定着しているだけにそう思えるのであろう。カタカナ語に反感を覚える人がいるのもこのあたりに一因があるのかもしれない。

6. まとめ

表現される内容(=意味)の共通点と比較点としては次のようなことが考えられる。

【1】

	「出発する」	「スタートする」
共通	ヒト,あるいは人によって操作されるものが,移動する状態に入ること。	
比	a. 速さ, 勢いは関係しない。歩くような速さでもよい。	a'. 移動に入る時の速さ, 勢いが大きいことが表わされる。
	b. 意思は強く表わす。	b'. 意思は表わさない。
較	c. 「どこかへ」(はっきりした目的地である必要はない)の含意あり。	c'. 「どこかへ」の含意はない。
	d. 近くや通り慣れている所へ行く場合には言わない。	d'. 近くや通り慣れている所へ向かう場合でも, 移動する速さや勢いを問題にする時には言う。
	e. 移動に入ることとともに, 移動して行くことをも表わす。	e'. 移動に入ることをはっきり表わすのが重点である。
補足比較	<p>「うごきだす」: a, b, 今いる地点から移動する状態に入ること表わすのが重点で, 「どこかへ」の含意はなく, そのため移動がなくても言える。</p> <p>「でかける」: a, b, 近くや通り慣れている所へ行く場合にも言える。「どこかへ」の含意はなく, 「(場所)へ」と言う場合にも, 家とか今いる地点の付近から外へ移動しようとすることを表わすのが重点。</p> <p>「かけだす」「はしりだす」: a, b, c, d, 「かける」「はしる」という動作の種類が表現されることで「スタートする」とは違って来る。</p>	

【2】

	「出発する」	「スタートする」
共通	ヒトが, あるつとめや立場を持続する状態に入ること。つとめや立場は「~として」で表わすことができる。	
比較	暗れやかかさなどの感じは表わさない。	暗れやかかさ, 際立った感じなどが伴わない, その状態に入ることをはっきりと表わす。
補足比較	<p>「あゆみはじめる」: 「歩む」という動作の種類が表わされることにより, 一步一步足を踏みしめながら経験を積むという状態に入るような連想を呼ぶ。</p>	

【3】

	「出発する」	「スタートする」	「はじまる」
共通	瞬間に終わってしまわない何かの「こと」が, ない状態からある状態へ移ること。		
比較	「こと」を表わしている語を「そのことに関係するヒト」と言いかえることができる。	言いかえることはできない。	
	勢い, 新しさなどの感じは伴わない。	勢い, 新しさ, 暗れがましきなどの感じが伴う。宣伝効果をねらう表現では好まれる。	「スタートする」にあるような特徴は表わさない。ごく普通の表現をする。

言語経歴: 1954年2月神奈川県南足柄市生。
現在に至る。

〈余 録〉

神奈川県といっても大都会をつきはなした, てくてく峠を越えると駿河の国にころげこむ, 早くいえばいなか, そこに育った私。東京がすばらしいものでないとわかると, 野暮でかまわないと悟った。とはいえ, ことばは気がひけた。「行くべえ」「知らねえ」「いちんち(一日)」などは「悪いことば」だという意識が頭のすみにある。それは明治後期の標準語教育の余波らしい。「悪いことば」を言わないことはそれほど難しくない。というのも, 標準の共通語は現在に至っても文章語に基づいている。助動詞などの補助語や音韻上の変形を少し改めれば共通語になると思っていたので。けれどだんだん自信がなくなってきた。第1に, 『日本語研究』の演習をやってみると, 語義意識にわりと個人差があることに気づかされる。もっとも, 部屋の中での反省は, 現実離れ症を諸氏にもたらすきらいがなくもない。第2にアクセントでちよいとぐらついた。私の姓は地元では「カ」が低い^{カンベ}。ところが大学に来るとほとんどの方が「カ」を高く呼ぶ。小学館の『国国大辞典』までが後者を標準的としている。が, 部屋を出た私は自信をとりもどしつつあった。それらの違いがあってもことばは通じている。そして再び悟った。野暮に徹しよう。